

第9回旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

日 時：令和3年8月26日（木）

午前10時～正午

場 所：市役所本庁舎7階全員協議会室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

- (1) 「一定の方向性」を示すまでの手順について **資料1**
- (2) 市民アンケートについて **資料2**
- (3) 活用案の比較・評価について **資料3**
- (4) 旧本庁舎等跡地活用に関する報告書について **資料4**

4 その他

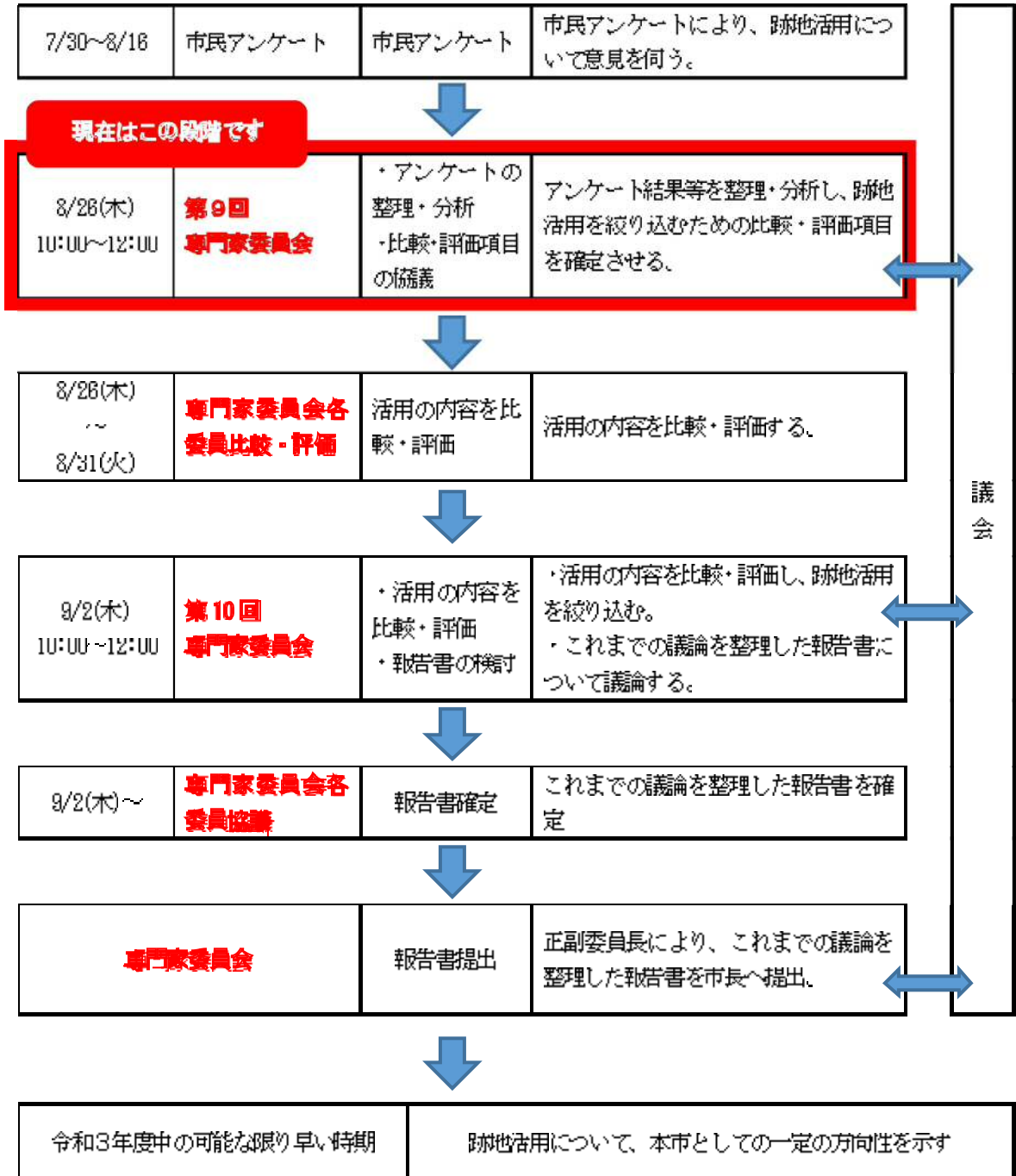
5 閉 会

「旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」委員

【順不同・敬称略】

役職	氏名	所属	出欠
委員長	柳 年哉	公立鳥取環境大学 経営学部 教授	出
副委員長	福山 敬	鳥取大学 工学部 教授	出
委員	飯野 公央	島根大学 法文学部 准教授	出
委員	木田 悟史	公益財団法人日本財団 鳥取事務所 所長	出
委員	堤 洋樹	前橋工科大学 工学部 准教授	出 (Web)
委員	湯口 夏史	湯口一文税理士事務所 税理士	出

「一定の方向性」を示すまでの手順について



鳥取市旧本庁舎・第二庁舎跡地活用に関するアンケート調査

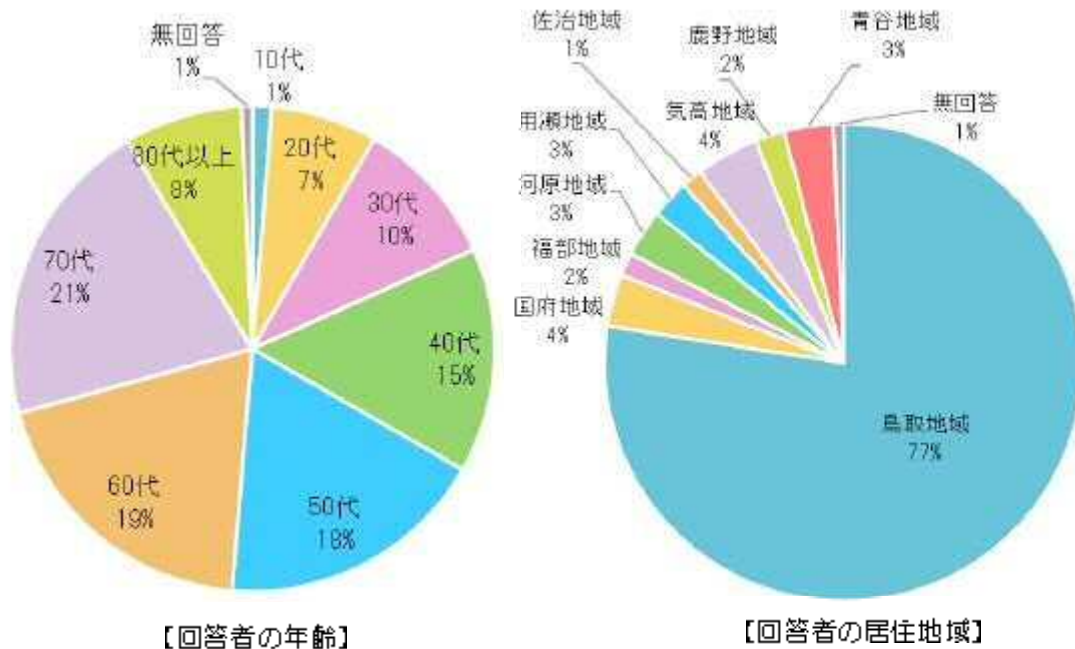
実施概要

実施時期	令和3年7月30日～8月16日
実施方法	郵送による配布・回収
対象者	18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）
回答者数	847人（回収率42.4%）
送付資料	依頼文 市民アンケート調査票 （別冊）みんなで一緒に考えましょう 鳥取市の将来

調査結果

1) 回答者の属性（年齢、居住地域）

- ・回答者の年齢は、70代、60代、50代の順で多く、50代以下（51%）と60代以上（48%）が概ね半数ずつとなっている。
- ・居住地域別では、鳥取地域が77%を占め、多数となっている。



2) 跡地の活用策

(1) 旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策

①～⑩の活用策の中から、1つないし2つ選択。

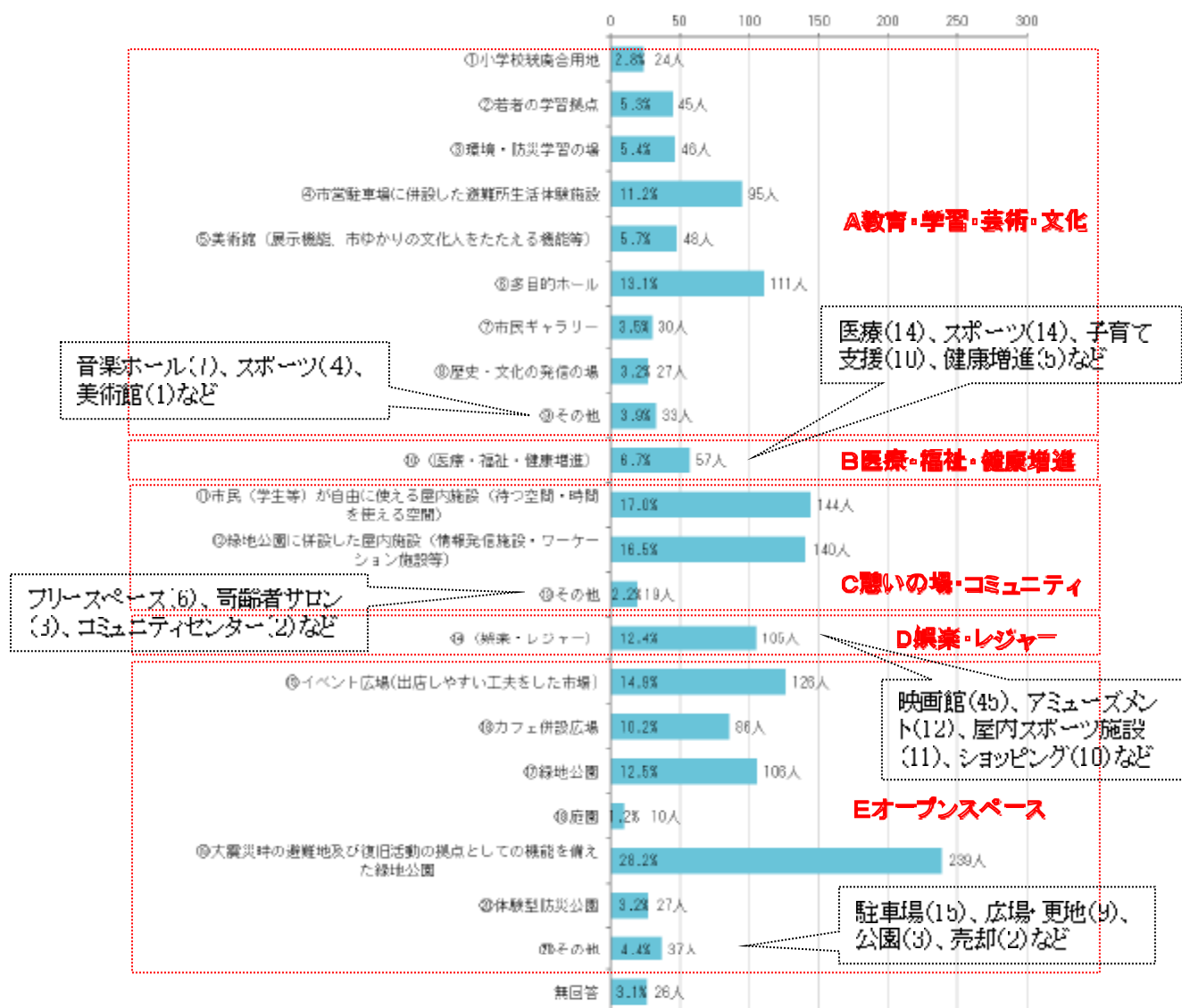
A～Eの5つの各機能からは1つだけ選択という条件を付した。

ただし、貴重なデータを有効活用する観点から上記条件を満たさないものも含んで集計した

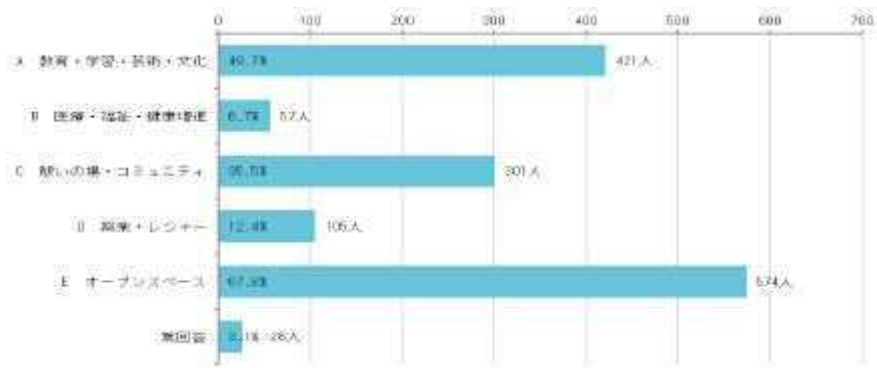
・21の活用策では、⑩大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園が最も多く、次いで、⑩市民（学生等）が自由に使える屋内施設（待つ空間・時間を使える空間）、⑩緑地公園に併設した屋内施設（情報発信施設・ワーケーション施設等）、⑩イベント広場（出店しやすい工夫をした市場）、⑥多目的ホールの順で回答が多い。

・5つの機能別に集計すると、Eオープンスペースが最も多く67.8%、次いでA教育・学習・芸術・文化（48.7%）、C憩いの場・コミュニティ（35.5%）であった。

※%の数値は、各項目の回答数を回答者数（847人）で除して算出（複数回答のため合計は100%を超える）



【日本庁舎等跡地に必要と思う活用策の回答数・%】



【旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策の機能別集計の回答数・%】

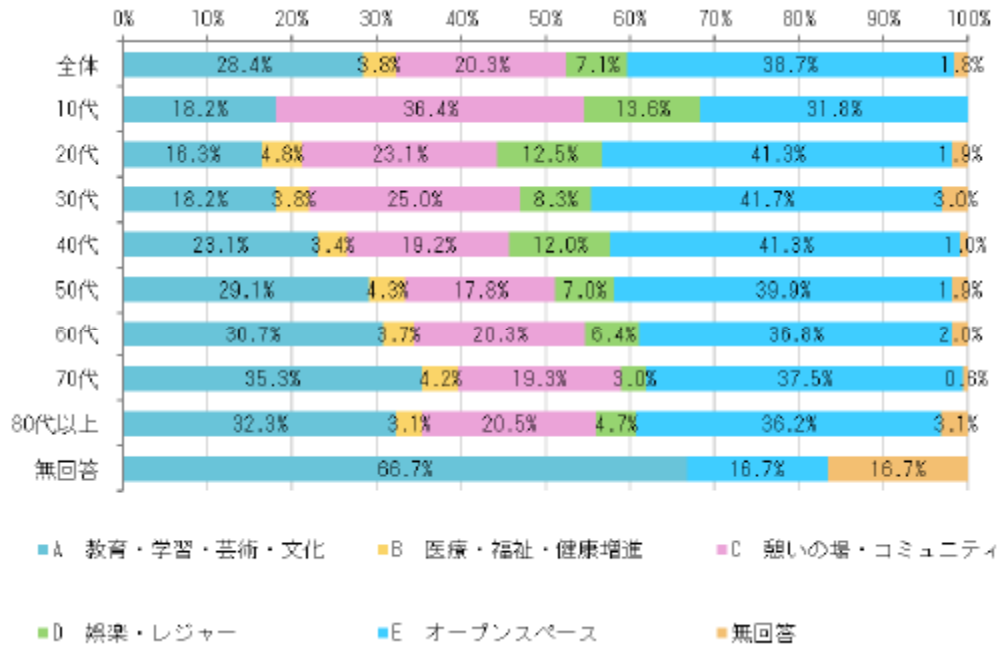
・年代別特徴：⑩市民（学生等）が自由に使える屋内施設、⑭娯楽・レジャー、⑯カフェ併設広場等は若いほどニーズが高く、④市営駐車場に併設した避難所生活体験施設、⑤多目的ホール、⑮大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園等は、高齢者のニーズが総じて高い。

※%の数値は、各項目の回答数を全回答数で除して算出（合計100%になるよう算出）

（数値は一部省略して表示）



【年代別 旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策の回答比率】



【年代別 旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策の機能別集計回答比率】

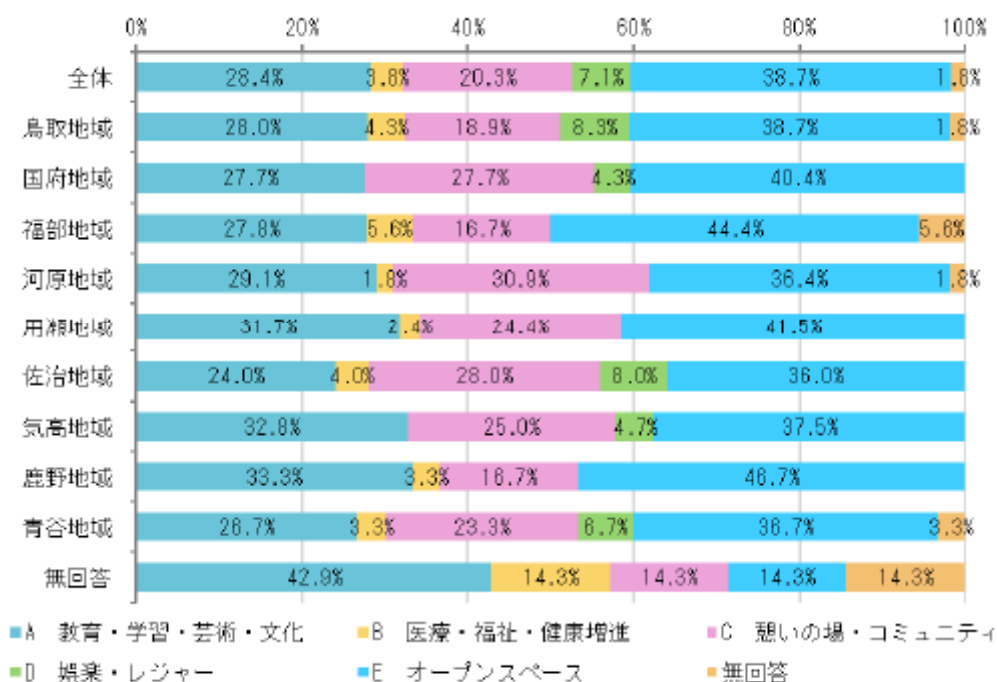
・地域別特徴：いずれの地域も特定の活用策に特化する傾向は見られない

※ %の数値は、各項目の回答数を全回答数で除して算出（合計 100%になるよう算出）

（数値は一部省略して表示）



【地域別 旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策の回答比率】



【地域別 旧本庁舎等跡地に必要と思う活用策の機能別集計回答比率】

(2) 活用策を選択した理由や具体的な内容・イメージ(抜粋)

①小学校統廃合用地
<p>天気に左右される事なく利用できるものがよい 町なかになり、十分な広さがあるため、小学校に利用できそう。 市街地の小中学校の児童生徒の減少を聞きます。統廃合が必要となるのでは。 遷喬小、日進小、久松小を合併して、一つの小学校にする。</p>
②若者の学習拠点
<p>若者が増え、賑わいが生れる。私立の学校で県外からの進出でもよいのでは。 学習施設や公園といった親子・家族で学べる、かつ雨や雪の日でも遊べる施設が欲しい。 職業体験のできるものなどあそびと学びを兼ねた場。 子どもの学習スペースが少ない 図書館の学習コーナーもいつも満員で使えない</p>
③環境・防災学習の場
<p>最近、大雨や地震等の災害が全国的におこっています。その時々の様子や対処方法をビデオ等によって見たりすることによって各個人が身をもって考える習慣を身につけることが大切だと思います。ビデオ視聴室、起震車体験室、必要な備蓄物資室等の教室作りがされたらと思います。 近年の環境変化、大型災害に対応する施設及び空間が必要 地球温暖化により想定外のことが発生している。環境問題と防災教育の場として子供から大人までいつでも学習出来る場や体験出来る公園など 施設として</p>
④市営駐車場に併設した避難所生活体験施設
<p>防災については、忘れてはならない問題であるから 病後やけが後のリハビリ場所があると安心だから 周辺の商店街活性化のためには、安価に利用できる大収容の立体駐車場の不可欠です。防災や避難所の機能も考えるのであれば、立体で耐震性のある駐車場を備えて、駐車料には補助金を反映させた方がいいと思います。</p>

⑤美術館(展示機能、市ゆかりの文化人をたたえる機能等)
<p>県立美術館が倉吉市に設置され、県立博物館の美術部門が鳥取市になくなるので、鳥取市立美術館で美術作品を鑑賞したい。(米子市立美術館はよい活動されていると思う。)</p> <p>県内の米子市、倉吉市には美術館はありますが鳥取市にはありません。多くの美術者、書家の方達の展示発表する所があると多くの方々活動発表出来ます。</p> <p>県東部に常設美術館があってもいい。</p>
⑥多目的ホール
<p>市民会館も老朽化してきている為、今後の取りこわしを想定して、多目的ホールを作るのがよいかと思いました。また、自然の中にあるのも良いと思うので、緑地公園のような広場もあるのが理想的だと思いました。</p> <p>市民が自由に利用できる場所の確保と活用できる状況をうまくからめて作成してほしい。</p> <p>様々な世代が多目的に使用できる施設が、汎用性があり、有効活用できると考えたから。</p>
⑦市民ギャラリー
<p>雨が降っても使用できますように</p> <p>県立博物館やギャラリーはあるが、駐車スペースが狭かったりコインに停めないといけないので駐車スペースが広いギャラリーがあったら良いと思う。</p> <p>勤め人、一般人の自由時間で習い事ができる場があるとよいと思います。そして、作品を展示する会場があると創作意欲につながり、仲間づくりにも効果的です。元気な市民が増えます。</p>
⑧歴史・文化の発信の場
<p>鳥取城跡と連動した歴史文化の発信基地とする。</p> <p>最近の豪雨災害対応出来るような拠点とする。</p> <p>日本の文化を継承するための場所</p> <p>高砂屋の移築。高砂屋を中心に伝統文化の拠点にする 町並の復元し交流の拠点を作る</p>
⑨その他
<p>洋楽・邦楽どちらにも対応できる、音響が良く、調弦室、控室、駐車場が完備し、しかも利用料金の安価な客席 300 程度の小ホールが欲しいです。</p> <p>跡地は、NHK 鳥取放送局に売却又は賃貸契約する選択肢は無いものでしょうか。</p> <p>現在の NHK 鳥取放送局は、敷地も建物も狭いため、公共放送としての使命を十分に果たしているとは言い難い気がする。跡地に新設し、教育・学習・芸術・文化に貢献して欲しいと願う者です。</p> <p>多目的ホール、カルチャーセンターなどは多少なりとも市にあると思うが、音楽ホールというのはない。音質の良いホールで、開くことは、未来のある子ども達にとっても有用だと考える。もっと身近に、音楽を楽しむ場所がほしい。</p>
⑩医療・福祉・健康増進
<p>低価格で利用できるスポーツジム。若年層から高齢層までが使えるよう、多様なフィットネスマシンを多数備えてほしい。運動後に汗を流せ、体をケアできるよう温泉併設だとなお良い。</p> <p>これから高齢者増える時代、鳥取には老人ホームが少ないと思います。</p> <p>老人が安心して暮らせる様になれば家族も安心して働けると思います。</p> <p>介護施設、保育施設に活用して欲しい。介護世代も子育て世代も仕事との両立が困難で、解決する手立てもない。</p>
⑪市民(学生等)が自由に使える屋内施設(待つ空間・時間を使える空間)
<p>誰もが自由に利用出来る場所にして欲しい。</p> <p>周りの施設とか考えたらこれがいいのかと思った。</p> <p>若者が楽しく遊べ学んだり出来る施設又は観光に来た人が、立ち寄り見学出来て癒される施設がいいと思う。例えばサンドアートとか砂絵等の砂に関係ある展示や遊べる施設など。</p>
⑫緑地公園に併設した屋内施設(情報発信施設・ワーケーション施設等)
<p>人が集まれるコミュニティ イベント カフェ有 (集 Lab のイメージ)</p> <p>防災も考えた施設を併用したもの。(屋外施設)</p>

<p>周辺の様子を見て、緑地公園を軸としての他多目的広場が良いと考えたから。</p>
<p>㊸その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ランドマークタワーとなる高さ制限ギリギリの高い建築物とする ・災害時避難所機能を備えた複合型のマンション ・文化、福祉、コミュニティー等々の機能を下層部に、上層部を分譲マンションに ・最上階に展望レストラン、屋上に展望大浴場を設ける <p>※民間活力と資金を活用してやれば十分採算の取れる事業として成り立つと思う。</p>
<p>夏だけでなく、春、秋、冬でも傘踊り体験出来る場所があれば楽しいと思うから。 事業所だけでなく、個人でも販売出来るようなフリーマーケットのスペースがあれば、ショッピングも楽しいし、衣類や他物品(要らなくなった物)の廃棄処分も減って良いと思うから。</p>
<p>子供達が、知らない大人と一緒に、読書や室内遊び(親が働いて1人になる事がある子供)(特に休日・冬休み中)が出来る場。(開放公民館のような場)大声を出してもいい広場、体育館のイメージ</p>
<p>㊹娯楽・レジャー</p>
<p>市の中心に人を集めるためにも日帰りの温泉施設があれば集客につながり周囲の発展につながるため。</p>
<p>子供が楽しめる場所が欲しい</p>
<p>鳥取には、駐車場がある映画館がなく、行きたいと思ってもなかなか足を運びにくい。子供がいる世帯にとっては映画館があると夏休み等とても助かる。 映画館は幅広い年齢層で利用でき喜ばれる施設だと思う。</p>
<p>㊺イベント広場(出店しやすい工夫をした市場)</p>
<p>カルチャースクールなど県民会館と相互協力できる施設。広場には、スケボーの手すりなどオリンピック競技で大阪府松原市がしたような設備充実。鳥取市に住みたいと思うような施設がほしい。例えば、レスポーツの大会が開催できるプロジェクター併設型ホールなど。</p>
<p>若い世代の人がより活躍でき活気ある町にしていくのに良いと思うから。 個人の出店などもしやすい広場に、定期的なみんなが集まれるイベントやステージなどにもなるような、場所があるとまちも活気がわくと思う。</p>
<p>週末のマルシェ等、商店街のイベント、バザーブースに活用。箱物(建物)はいりません。 メンテナンスに経費がかからないシンプルな広場を希望します。</p>
<p>㊻カフェ併設広場</p>
<p>フリースペースとして使用 時代の変化に対して今後を考える、大型箱物は建てないこと</p>
<p>防災の面から、広場は活用しやすい。面積的にグラウンドに匹敵する広場を町中につくるのは、憩いの場としても意味がある。 50～60代がくつろげるスペースとして、Drink コーナーのような建物があると、暑さなどから避難もできる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・近辺を歩いている人がふらっと寄りたくなるような緑地 ・広場だけではつまらないので、休憩できるようなカフェ ・子供が遊べるような遊具 ・商店街利用者も車をとめられる駐車場 ・お祭りなどもできるようなフリースペース、出店がたくさん並ぶような
<p>㊼緑地公園</p>
<p>市内中心部に緑豊かで憩いの場として利用できるエリアがあると、賑わいを無くしつつある商店街に活気が生まれると思うから。 また、周辺施設で会議やイベントがある際に、待ち時間に一息つける空間としても利用できる。※屋根がついている箇所や併設駐車場があるとより有効に活用でき、利用が盛んになると思われる。</p>
<p>鳥取市には緑化公園が少ない為、誰でも気軽に使用出来る憩いの公園。</p>
<p>キッチンカーも乗り入れ可能な緑地公園 年配の方やファミリーも集まれる公園</p>
<p>㊽庭園</p>

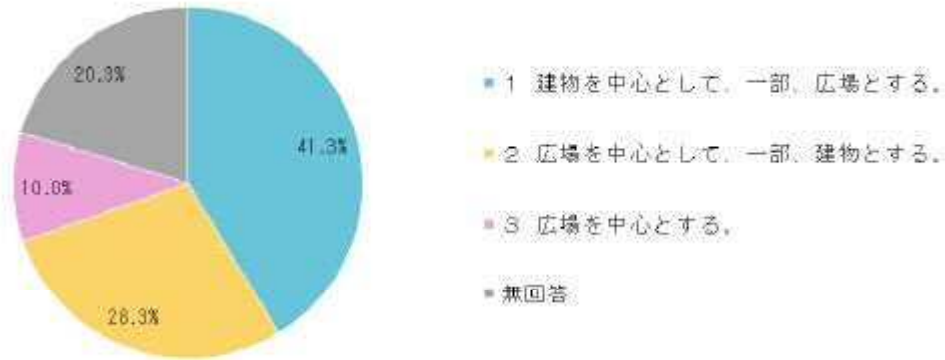
鳥取には緑の公園や庭園が少なく人があつまらない
鳥根県の足立美術館のミニで市民も潤いたい庭園を造ってほしい。建物ばかりにこだわる必要は無いと思う。
病院が近いので気分転換にきれいな庭園を見ながら散歩出来るので良い。
⑩大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園
病院も近くにあり、県庁も近く、交通の便も良いから災害の時良いと思う。
市内に緑が少ない(街路樹を含めて)
災害時の避難場所を兼ねた場所であって、通常は”憩いの場所”が大切である。
障がい者(車イス)等に対応出来る避難所がないので、その機能を持った公園
⑪体験型防災公園
今後、防災に対する備えが一番大切になると思います。鳥取大地震や鳥取大火災などを忘れない為、記念館や体験できる設備があればいいと思います。
防災を体験できる施設
・建物からの避難方法 ・エレベーターからの避難方法とか
鳥取市内(駅あたり)に大きい公園がないと思うので、備えも含めて防災公園が良いと思います。
市役所にも防災の備えがあることは存じていますが一極集中より分散しておいたほうが良いのかなと思います。
⑫その他
(一社)日本 RV 協会が認定する RV パークを公設で行うことにより、近年増加しているキャンピングカーでの車中泊を行う方々に鳥取の中心地に泊まってもらい、飲食店、温浴施設や仁風閣等の観光施設にも立ち寄ってもらうことで地域の活性化の一助にする。
本庁舎跡地周辺、JR 駅周辺に行く場合、いつも足が遠のくのは駐車場の事になります。跡地を無料駐車場にいただいたら、商店街を私達は歩きます。少しは買い物客も増えないでしょうか。
鳥取市の一番西に位置する為に何が作られても利用する事が少ないので意見有りませんが建物(施設)等は良くないでしょう。後々管理が大変ですから
民間企業による商業施設の誘致

3) 跡地の活用方法（イメージ）

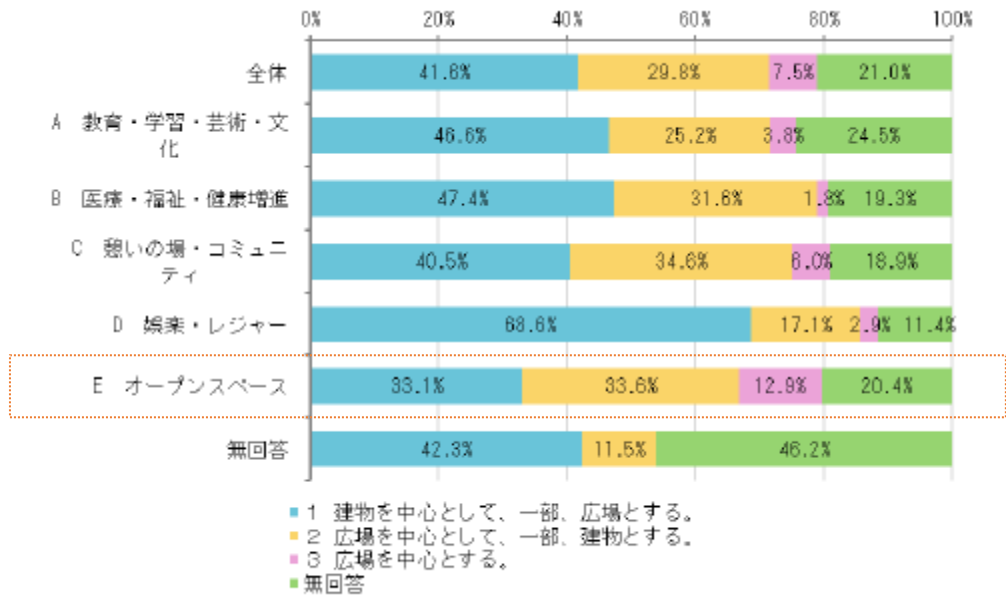
(1) 建物と広場の使い方としてのイメージ

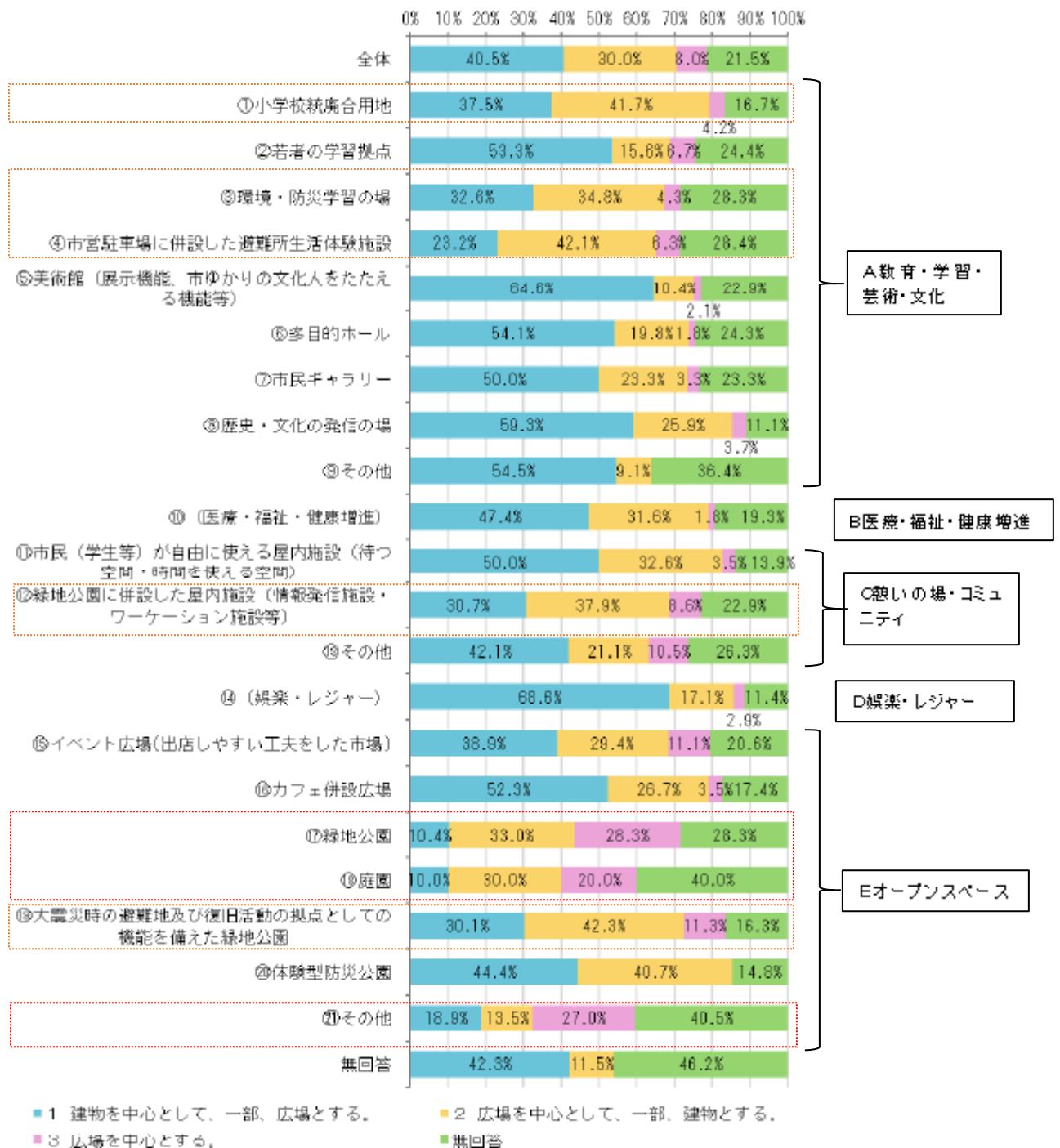
3つの選択肢のうち1つを選択

・1 建物を中心として一部広場(41.3%)が最も多く、次いで「2 広場を中心として一部建物」(28.3%)であり、「3 広場を中心」(10.0%)が最も少ない。



・5つの機能別に集計すると、E オープンスペースが「2 広場を中心として一部建物」の回答が最も多く、その他は「1 建物を中心として一部広場」が最多となっている。

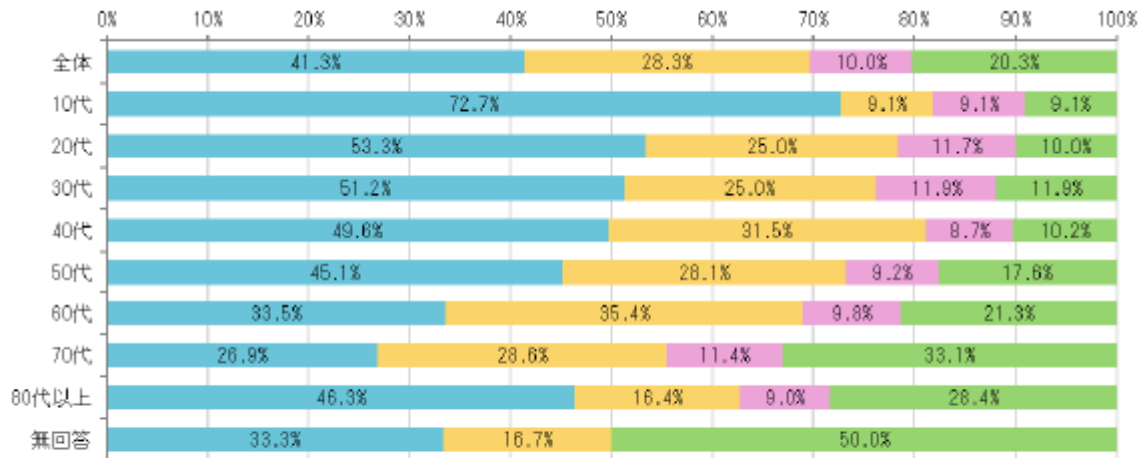




 「2 広場を中心として一部建物」の回答が最も多い活用策
 「3 広場を中心」の回答が多い（20%以上）活用策

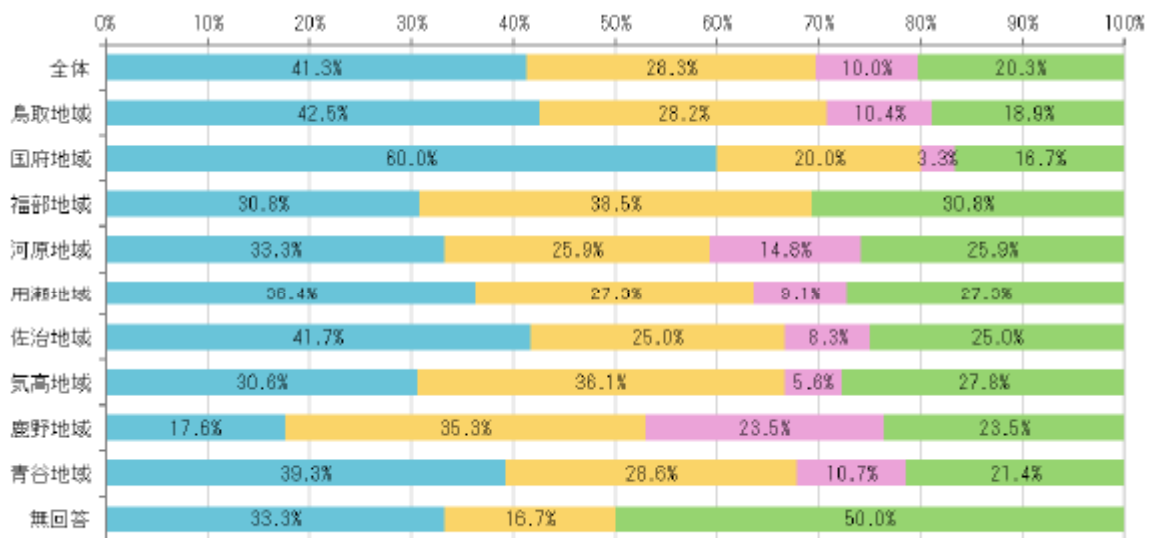
【(問2) 跡地の活用策と(問3) 活用イメージのクロス集計回答比率】

・年代別特徴：若いほど建物に対するニーズが高い傾向がみられる。



■ 1 建物を中心として、一部、広場とする。 ■ 2 広場を中心として、一部、建物とする。 ■ 3 広場を中心とする。 ■ 無回答

・地域別特徴：福部地域、気高地域、鹿野地域では「2 広場を中心として一部建物」が最も多く、他の地域では「1 建物を中心として一部広場」が最も多い。特に国府地域は1の回答が60%を占めて多く、一方、鹿野地域は1の回答が最も少ない。



■ 1 建物を中心として、一部、広場とする。 ■ 2 広場を中心として、一部、建物とする。 ■ 3 広場を中心とする。 ■ 無回答

比較・評価項目について

複数案について、これまでの住民参画による意見、専門家委員会での議論、議会調査特別委員会の意見・提言を踏まえ、評価項目ごとの評価結果に基づいて、機能や活用策等に応じ多様な観点から複数案の優位性を評価する。

- 専門家委員会委員により比較・評価する活用策を選定
- 項目数は専門家委員会委員により決定

評価項目		評価基準						
大項目	小項目							
1 全市民の財産であることへの公平性	①高次都市機能性	全市民が利用することができる活用						
	②公共性	利用者が特定(制約)されず、不特定多数の市民が利用できる活用						
2 にぎわい創出・地域活性化への貢献	③拠点性	若者の流出抑制・定住促進につながる活用						
	④集客性	市内・外から多くの人を惹きつけることができる活用						
	⑤回遊性	中心市街地の他の施設や資源と連携して、回遊性を創出することができる活用						
	⑥既存施設競合	既存施設との競合や、民業圧迫が懸念されることがない活用						
3 財政負担の軽減	⑦経済性	市の財政負担を極力少なくする活用						
	⑧収益性	民間活力の活用など、市にとって税収を含めた収益増加が期待できる施設						
	⑨柔軟性	将来の市民ニーズ、社会情勢の変化等に的確に呼应し、柔軟に利活用できる活用						
4 関連計画との整合性	⑩周辺環境との調和	周辺の歴史・文化環境と調和し、地域の魅力を高めることができる活用						
	⑪公共施設経営	40年間(令和36年度)で、施設面積約20%を目標とする公共施設経営(ファシリティマネジメント)への貢献が期待できる活用						

○:効果がある、期待できる、評価する

△:普通

×:効果がない、期待できない、評価しない

鳥取市長 深澤義彦様

旧本庁舎等跡地活用に関する報告書

令和3年●月●●日

旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

「日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」委員

【順不同・敬称略】

役職	氏名	所属
委員長	柳 年哉	公立鳥取環境大学 経営学部 教授
副委員長	福山 敬	鳥取大学 工学部 教授
委員	飯野 公央	島根大学 法文学部 准教授
委員	木田 悟史	公益財団法人日本財団 鳥取事務所 所長
委員	堤 洋樹	前橋工科大学 工学部 准教授
委員	湯口 夏史	湯口一文税理士事務所 税理士

「日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」会議開催経過

年月日	会議名
令和2年 5月25日	第1回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和2年 8月 3日	第2回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和2年12月25日	第3回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 3月23日	第4回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 4月 1日	第5回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 5月19日	第6回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 7月 1日	第7回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 7月15日	第8回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 8月26日	第9回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 9月 2日	第10回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

1 はじめに

- 56年もの長きにわたり、市民の皆様が親しまれてきた鳥取市役所旧本庁舎は、老朽化が進んでいるため、令和3年7月から解体工事を行っている。
- 鳥取市では、旧本庁舎と第2庁舎が立地していた場所を長年多くの方々に利用され、親しまれてきた全市民の貴重な財産とされており、跡地の利活用を検討するに当たり、様々な方法で多くの方々に幅広く意見を伺ってこられ、鳥取市の活性化につながる活用となるよう、丁寧に検討してこられた。
- この報告書は、上述したことやこれまでの市民の意見を踏まえながら、求められる機能とその機能を実現するための活用について、本専門委員会でも議論されてきた内容を整理し報告するものである。

2 旧本庁舎等跡地活用

(1) 基本的な考え方

市民アンケートの結果等も踏まえ、次に掲げる活用の仕方と利用のテーマとなるよう検討されたい。

- 利用者が限定されないような活用を図る。
- 市の財政負担（建設費、維持費）を極力少なくする。
- 若者の流出抑制・定住促進につながる活用を図る。
- 近隣の商店街等の活性化に貢献する活用を図る。 など

(2) 関連計画との整合性

跡地活用にあたっては、当該地区に関連する計画との整合性を図られたい。

- 第11次鳥取市総合計画**では、まちづくりの理念を「鳥取市を飛躍させる、発展させる」とし、めざす将来像を「いつもまでも暮らしたい、誰もがくらしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」とされている。
- 鳥取市都市計画マスタープラン**では、既に高度な都市機能が集積している中心市街地を「中心拠点」、身近な生活サービス機能が集積している総合支所周辺などを「地域生活拠点」と定め、各拠点が提供するサービスを役割分担し、各拠点やその他の集落地をバスなどの公共交通で効率的に結ぶ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指している。
- 中心市街地活性化基本計画**では、「集い、つながる、とっとりのまち山陰東部の都市核づくり」をテーマとし、当該地区が該当する鳥取城跡周辺地区のエリアコンセプトを、「歴史・文化等を有する観光交流、豊かな居住の舞台」とされている。
- 都市計画**では、用途地域が商業地域に指定され、市民や来街者など様々な人が利用する高次都市機能の集積等による新たな賑わい空間の創出を目指しているが、**地区計画**により、宿泊施設、遊戯施設、風俗施設等を禁止している。加えて、**久松山山系景観形成重点地区**に指定し、周辺の緑や歴史的建造物等との調和を図る地区と位置付けている。

(3) 求められる機能とそれを実現するための活用策

跡地活用にあたって、次のとおり求められる機能とそれを実現するための活用を取りまとめた。
.....
..... 検討・整理されたい。

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

③ 附帯意見

- (1)
- (2)
- (3)
- ・
- ・
- ・

第9回 日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日 時 令和3年8月26日（木）午前10時～11時30分
2 場 所 市役所本庁舎7階 全員協議会室
3 出席者 （1）委員（Web会議1名）
柳委員長、福山副委員長、齋藤委員、木田委員、堤委員（Web会議）、湯口委員
（2）事務局
高橋企画推進部長、河井経営統轄監、渡邊次長兼政策企画課長、平田政策企画課長補佐

4 内 容

●委員長挨拶

市民アンケートの結果をまとめていただいている。比較・評価をして活用策を絞り込むので議論をよろしく願います。

（1）「一定の方向性」を示すまでの手順について

○委員 これは行程表。それでは各角度からまとめたアンケート調査の結果説明をお願いします。

（2）市民アンケートについて

○委員 アンケート調査結果を多方面からまとめていただいた。P2の活用策については%で示していただいている。どのニーズが多いか分かるし、広場中心か建物中心かもまとめてある。P10をクロスしながら考えていただければいいと思う。

○委員 アンケート自体は結果なので質問はない。若者の方が建物・施設がほしい傾向が高いとあったが、施設を作るのは、総量削減の観点から正直あまり望ましくない。作る方向で考える必要はない。既存の施設の使い方を考える必要がある。例えば学習スペースは、どこでも使える、特別な設備は必要ないと思う。アンケート結果を踏まえて跡地利用の話だけではなく、他の施設についても使い方を考えてみる。高齢者等年代別に制限がかかっている施設を、市民全員が使える使い方を考えていく必要がある。若者の建物が足りないと言っているのは解決できる問題だと考えている。

○委員 他の施設、例えば市役所本庁舎の施設を有効利用するとか、そういう考えも踏まえながら、活用策を考えたらどうかという話だった。

○委員 アンケートの結果は結果として受け取る必要があるが、そのあと我々として、これをどう読み解いていくか、あるいは、実際に今後、市の提案としてどのような形で市民に提示するかを議論する必要がある。委員から既存の施設の利用という観点も含めて絞り込みをしてみようという話があった。例えばP2の防災関係では、いくつかにまたがって回答がある。答えをまとめることができるような回答もあると思うので、絞り込みをする中で、選択肢を提示できるような作業が我々にとって必要になると思う。

○委員 確認する。今回、最終的に報告書を提出するが、そもそも何か新しく建物を建てるという前提ではない提案もあり得るのか。もし新しく建物を建てるという前提でいった場合、今回の専門家委員会最終的に活用策の方向性を出すことは理解しているが、今後、民間事業者等にサウンディング調査を行うことになると思う。その際、要件として外せないポイント・条件も伺いたいと思った。アンケートの自由記載の中に、活用に関して要件・要望、いろいろな意見が出ている中で、どこまで要件を組み込んでいくのか気になった。活用策を最終に絞り込んでいくと、相当大まかな方向性にしかならないと思うので、そこをどれぐらい肉付けしていく余地が

あるのか、あるいは、していく必要があるのかを議論できればと思った。

○委員 もう少し議論を重ねたらどうかという話だった。

○委員 質問はない。この結果を見た感想。これがもし3〜5年前だったらこういう形じゃなかったかもしれないと思った。PDCAでいうと、チェック・改善のいいきっかけになる意見がたくさんある。その視点も拾って活用する部分もそうだが、しないところにフォーカスした対応も大事。

○委員 アンケートの結果は結果なので参考にする。思った以上に、建物、屋根が必要であるというイメージを皆さん持っている。雨・雪を意識した活用というのはある。

○委員 建物を中心に、広場を中心とあるが、建物がどれぐらいの比率なのかイメージがなかなか分からないが、方向が決まれば、運用面で住民ニーズを反映した比率になってくると思う。あと、震災時の拠点が1番多かったことを考えれば、建物がなければ水・食料が供給できない、防災・減災機能がベーシックになっているので、建物がゼロは多分考えられない。結果について質問があれば次に進めたい。

●事務局 委員の質問に答えたいと思う。まず報告書の件。建物を建てるということが前提ではない。このアンケートも踏まえた委員の議論の中で、建物になることはあるし、公園的な使い方になることもあるので委員の意見をいただきたいと考えている。手法について、報告書の中で触れていただくことはあると思う。民間の手法を活用しながら、運営・管理というような、附帯意見も入ってくると思っているので、そういったことも、この委員会で話をさせていただければいいと思う。実際、我々が意見をいただきながら、今後、活用するときに参考にしながら運営していくというふうに考えている。

(3) 活用策の比較・評価について

○委員 比較・評価項目について、ポイントが2つある。1つは、その他を入れて21ある活用策を絞り込むこと、これをいくつまで絞り込んで評価表に落とし込むのか、2点目は、評価項目は十分なのかまとめた方がいいのか、議論をしていただきたいと思う。

○委員 この評価方法はいわゆるプロポーザルの評価方法に近い。アンケート結果を見ると、⑩が最も多いということで、オープンスペースについては、この委員会でも防災機能を備えた広場は合意が得られられていると思うので議論する必要は無く、前提でスタートしていくものと考えている。P3上のグラフ。B医療・福祉・健康増進とD娯楽・レジャーは他と比べるとかなり少ない。多い少ないで評価していいかどうかはあるが、市民が求めている活用策として優先順位は下がる。BとDは民間に整備してもらうのが前提にすればいいので、議論する必要は無い。となると今回、議論・評価したいのは、A教育・学習・文化・芸術とC憩いの場・コミュニティ、多いのは④、⑥、⑩、⑫ということになる。上位5つ、もしくは全体上位5つくらい、実質、検討するのは3つか4つぐらいだと思うが、これは議論していただければと思う。AとCを中心にいくつかピックアップして評価を見ていく流れ。AとCから2つずつ取り上げればいいのかという気がした。今回議論するのは、主機能、メインの機能を整理、少ない方は、作らない・整理しないではなく、サブ機能として整備の検討を行うことにする。今回の委員会では、主機能を検討するというので、AとCを検討することでもいいと思う。

○委員 Bオープンスペースはコンセンサスが得られているので整備する。それにAとCを付け加えるという話だった。

○委員 委員の言われる点も分からないわけではないが、例えば、Eオープンスペースを前提としたときに、AとCの中からそれと整合性がとれているものがあるかどうか、我々の方から発想して、評価をするというふうに考えるのか。AとCの中には、Eとは相容れないような要素もある。そのところを、この委員会としては、どちらを考えるのか先に決めておかないと議論が進まないのかなという気がするがいかがか。

○委員 その通りだと思うが、見た感じ決定的に相容れないものはなさそうだが、相容れないものを議

論しておいた方がいい。

- 委員 今の作業をここでしていくと、1つないし2つぐらいの案に、この委員会として方向性を絞ってしまわないかなという気がしている。
- 委員 例えば、オープンスペースを前提として、多目的ホールを併設すると相容れない。多目的ホールが小さくなる。A・C・Eから1つずつ選んで、機能を3つに絞る。BとDは評価表から落としてもいいと思う。3つから活用策を絞るという話も考えられる。
- 委員 今の委員の提案がむしろいいかなと思う。今回は、BとDを除く形で、A・C・Eの中で、どれを選択するかというやり方が、今の段階ではいいのかなと思う。
- 委員 A・C・Eで絞り込むということではいかか。P2の活用策のうち%で選ぶのか、そうじゃなく別の方向性から選ぶのか、例えば、市民ギャラリーと多目的ホールは使い方によっては1つになる。若者の学習拠点は1つだと思う。歴史・文化の発信の場と美術館は1つかも知れないので議論していただければと思う。AとCとEから選ぶということ。その中で活用策がAは9つある。そこから絞り込むのがいいのかグルーピングして絞り込んだ方がいいのかといろいろあると思う。
- 委員 組み合わせができるということは考えているが、逆に言うと、先ほど、説明したように主と副という位置付けであれば、当然この副は取り上げればいい。今回は議論する時間があまりなく細かい議論はできない。アンケート結果が出ているので、2つもしくは3つぐらいの活用策だろうと。A・C・Eから2つずつぐらい取り上げて議論する。アンケートの結果に対してきちんと答えるなら、まずは多い方から選ばないといけない。
- 委員 多い方からというのは一つの意見だとは思。例えば、Aのところで1番多いのは⑥多目的ホール。2番目が、④市営駐車場に併設した遊樂所生活体験施設とある。例えば、極端なことを言うと、④は⑥とほぼ一緒の発想。Aでは、⑥が1つ。もう1つは②と関連するものを1つというやり方だと評価する方も評価しやすい。同じことをCでもやるというやり方でいかか。
- 委員 多目的ホールに、学習の場を付加する。まとめやすいのは、憩いの場で⑩と⑪は、結局、自由に使える屋内施設ということ。情報発信も1つにまとめられる。
- 委員 異論はない。C⑩もA②とニュアンス的には近いのでまとめてもいい。
- 委員 これをいただいたとき、まとめるという発想は頭になく、単純にこのアンケート項目のまま多い順でいいと思っている。組み合わせは無限にある。せっかく市民の方に聞いたままの活用策で、委員が言われたように、Aから2つとか多い順にやる方がやりやすいと思っている。
- 委員 委員と同じく、この資料を見たとき、まとめていくイメージは持っていないで、どういうふうを選択肢を見やすくするのかわかるとかという感じだった。今まで機能と活用策を選択肢として決めてアンケートを取って、出た結果に対して、また項目を超えてまとめるというのは、抵抗がある。あるとすれば結果の数値をもって大きくまとめる。例えば、全体の10%以上の回答が得られているものは無視できない、着目すべき、例えば10%になることに着目すると、⑦・⑧・⑨はある程度の規模で実現できるようなアクティビティとして10%になるという形で1つずつ見ていく。項目は超えない方がいいという印象。
- 委員 大胆な言い方をすれば、⑥多目的ホールの人数が一番多いので、Aからは⑥多目的ホール。CとDからはどれかにする。報告書を作る時、附帯意見として⑥多目的ホールについてはこういうことを考えて欲しいというように、報告書で提言するのは一つの方法だと思う。評価項目についてはまとめないで、我々が議論したことを報告書の中で提言する方向で絞り込んでどうか。人数・%の多いものに絞って、3つか4つに絞り込める。絞り込みについてグラフを見ると、一番多いのが⑩、その次が⑪、⑫。Aから1つと、Cから2つと、Dから1つと、4つぐらいに絞り込めると思う。要するに上から順番に絞り込んでいかか。
- 委員 先ほど委員が言われたように、報告書の附帯意見として、「十分幅広の機能を持たせる」ということを明記していただければ問題ないと思う。

- 委員 委員が言われたように、絞り込みをやめて、附帯意見のところを書く。評価項目4つということでいいか、1つ目は⑥、2つ目は⑩と⑪、最後は⑫、ということで4つに絞り込むということでいいか。次は、評価項目、評価基準。大項目4の市の基本計画との整合性のところに、「ひとづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」を追加してほしい。
- 委員 ⑦経済性と⑧収益性の違いがわからない。
- 事務局 少し抽象的な部分がある。⑦経済性は、財政負担を少なくすること、イニシャルコスト、ランニングコストがかからない観点、⑧収益性については、設置後に例えば税収が期待できるとか利用料等も含めて収益増加が期待できる施設であるかどうかの観点で整理をした。
- 委員 ⑦と⑧は一緒だと思う。
- 委員 イニシャルコストが少なくてもランニングコストがかかれば一緒。⑦と⑧をまとめてもらいたい。
- 委員 大項目1の公共性はとても重要な言葉であるが、基本的には当然のこと。あまり公平性に固執すると非常に利用がしにくい。逆にそれが制限になってしまうことがある。ある程度、不足している機能を補うことが、今回の大事な論点の一つになっている。もし本当にそのサービスが必要であるならば、市民の特定の人かもしれないけども、特定のときかもしれないけども、必要であるならば、それをやらなければいけない。公共性、あるいは公平性に極端にこだわるのは、あまり好きではない。その辺は皆さんの判断に任せるが、あまり強調しすぎないほうがいい。当然、非排他性、排他はしてはいけないが、極端に公平性の縛りはあまりしない方がいいと思う。「全市民が利用することができる」くらいがいい。
- 委員 今のお話は①と②の小項目に分けず、「全市民が利用できる活用」とまとめるということ。
- 委員 ①から⑫の評価は、フラットに横並びで見ればいいのか、ある程度、係数・軽重・プライオリティを付けたりするのか。
- 委員 強弱をつけるかという話。
- 事務局 この評価項目については、重点配分とかは行わず、フラットに検討していきたいと考えている。
- 委員 多分、活用策を絞り込んだ時、市としてそういうところを考えながらやるんだと思う。今回はフラットで。
- 委員 本来、評価方法を決定してから、皆さんで点数を付けて合計値の高いものを選ぶという手法が一般的。今回は評価表を作って、そのまま上から決定という訳ではなく、それを参考に次回議論する位置付けだと認識している。①と②の違いは分かりにくいけど、この項目で確認したということであればこれでもいい。
- 委員 これはプロポーザルのように点数をつけて決めるものではなく、参考にして市の方向性を決めるということなのでフラットでやるということだと思う。
- 委員 例えばA⑥多目的ホールについて上から順番に○△×を付けるということ、そのとき主観が入る。全部期待できると言えば期待できるし、やり方次第で期待できることもあるし期待できないこともある。結構困ったなと思っているところ。
- 委員 市の評価基準の考え方を説明してほしい。
- 事務局 難しい質問。皆さん、専門家委員ということで各分野での知見を持っておられる。委員の知見を持って、○△×をつけていただくということになる。その中で、同じ施設を作るにしても、経費的な部分を我々は示していないので、それをどう考えるのかとなると、一つ一つを見れば確かにすごく難しい評価になってくる。ただ、そういった中で、各1個1個の質問を客観的に想像・想定していただきながら、○△×をつけていただき総合的な評価をしていただいた上で、また議論することを考えている。確かに1個1個考えると、どういったことを想定するのか示していない部分ではあるが評価をお願いしたい。
- 委員 例えば、財政負担であれば、規模とか人口動態等を考えて一般的な話として評価して欲しいということだと思う。

- 委員 明らかに×は分かる。やってみる。
- 委員 この評価項目で評価をして、まとめ方と報告書への反映の仕方について。プロポーザルだと非常にシンプルで、普通、点数化して足し算をしてまとめる。ここでは、それぞれ評価したのを持ち寄って、意見が違う場合は議論して一つにまとめていくのか、その辺はどのようなイメージで評価していくのか。
- 委員 最終的に報告書に1つにするのか2つにするのか決まっていない。場合によっては2つ、3つになる。価値観の違い等で1つにまとめるのが難しければ、報告書に複数の活用策の提案をして、それについての方向性を市が考えるということだと思う。
- 事務局 最終的に報告書の中で、1つに決めないといけないというわけではなく、2つになることもあると考えている。持ち寄っていただいた評価項目を示し、意見をいただきながら、その場で、1つにまとめる必要はないのかもしれない。例えば、1つの項目は全部○というまとめ方にしなくてもいいが、最終的には、この施設という形で、報告書の方には、1つの活用策であるとか2つの活用策にまとめていただければ、いいのかなと考えている。
- 委員 この評価項目については、皆さんが○△×をどういうふう考えたのか次回議論する。報告書については1つにまとめられなければ、いくつか提案が入ってきて、市民の方に十分説明して、市が方向性を決めるというふうになっていくと思う。
- 委員 確認、この委員会で1つとか2つとかまとめた活用策を市は受け取って大丈夫か。私のイメージは、アンケートと専門家委員会各委員がアンケート結果を見て温度差を解釈してメニューとして提供するイメージを持っていた。当然その中で取捨選択は入ってくると思う。専門家委員会の答申として、答えとして出てくるというものを作るというイメージを持った方がいいか。
- 事務局 報告書については次の議題になるかも知れないが、鳥取市としてはやはり候補の数は少ない方がありがたいのはありがたい。この会で絞って決めていただいたものをそのまま鳥取市の方向性とするのではないと、今まで話してきている。活用策は1つということではなく、それは今、委員が言われたように、アンケートとかこういった議論でこういうふうな方向性、またこういったことも必要、また附帯意見で記載していただく、それをまとめていただいた報告書で判断をさせていただくということだと思うので、委員の言っておられることとそう違わないのかなというふうに思う。
- 委員 わかった。1つに絞るけども附帯意見をつけるということか。
- 事務局 1つに絞ってくださいということではない。
- 委員 この会の立ち位置としてあくまで最終決定は市だと思う。市の意思決定をサポートするための機関だと思うので、ある程度、方向性の絞り込みを行うものの、それはあくまで意思決定を行うための情報であって、ここで何かを決めるというものではないという理解でいいか。
- 事務局 その理解でいい。
- 委員 報告書を受けてそれを参考に方向性を決めるということ、評価項目は、①と②、⑦と⑧をまとめられたらどうかということ。付け加えてほしいのは、市の基本計画との整合性はどうかということ。「ひとづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」についても評価してほしい。評価項目に付け加えたらどうかという意見はあるか。
- 委員 評価項目に空欄を作ってはどうか。
- 委員 空欄を作ると他の委員が評価できない。今日の結果を踏まえて、いつ頃、委員へ配布するか、
- 事務局 できるだけ早めに送付する。遅くとも明日の午前中には届ける。
- 委員 議論するのは、4/2（木）だから、市の作業を考えれば火曜日か水曜日か。
- 事務局 資料1をご覧くださいと思う。ある程度、今日、議論いただいた内容をイメージしていただきながら比較評価を始めていただき、市が送付した比較・評価項目を 4/31（火）を目途に提出していただければ、次の委員会にはまとめたものを用意できる。
- 委員 活用策をさきほど4つ示した。それとも、トップファイブでさきのいい5つか。

- 委員 最終的な報告書でどういう提案をするのかということを考えながら話を聞いていた。4つでもらつてもいい。大事なことは、それぞれの活用策を評価基準に照らしたとき、それぞれの案がどういうところに優位性があるが、どういうところに課題を持っているか、を一つ一つにこの専門家委員会が出す形で最終的なまとめになるとイメージしたが、その認識でいいか。
- 委員 それでいい。評価項目について委員の意見を聞いてそれをまとめる。
- 委員 順位をつけて決めるわけではなく、せっかくアンケート、これまでの検討を通じて、4つぐらいの項目に絞られた。それに対して、我々委員としてどう評価をするのかという認識でいいか。
- 委員 そのとおり。報告書はこれと決め付けるのではなく、委員会の意向を反映させるということ。プロポーザルでこれを採用しましょうということではない。
- 委員 それであれば大丈夫。
- 委員 今のような評価方法でいいか。委員の意見を集約・議論してその結果を報告書にまとめる。報告書で委員会の意向をまとめる。
- 委員 今回のアンケートの結果を受けて、案に対しこういうところに注意してほしい、こういうところに期待するという整理になる。順位をつける方向性ではないと考えている。
- 委員 4つでもらつてもいいということ。⑥、⑩、⑫、⑭の4つで比較検討したらどうか。
- 委員 委員が言われた何%以上の活用策を比較する話はどうだったか。
- 委員 今はトップ4。A・C・Eから活用策を選ぶ。Cは2つある。結局%で選んだということ
- 事務局 上位という考え方で選んだ場合、⑩イベント広場が128人、数字だけ見れば、⑥多目的ホールより多い。どう整理すればいいか。
- 委員 まず機能として考える。機能の中で大きいものを選んだということ。⑩と⑭の2つを選ぶのか。
- 委員 ⑩に関しては⑭の中に十分、内包されると思う。
- 委員 ⑩を別に分ける必要がないと思う。最終的な段階になってきた。次回、評価項目について議論する。活用策が決まってない段階で一般的な話で優劣をつけるのは難しいが、皆さんの経験を生かしてやっていただければと思う。付け加える項目があれば言うていただく。市から評価表が送付される。8/31(火)が期限ということでよろしく願います。

(4) 日本中会跡地活用に関する報告書について

- 委員 報告書は中身をまた検討していただく。(3)で皆さんの意見をまとめて、附帯意見としては例えば他の施設の有効利用を考える等を意見として記載する。

その他

- 事務局 改めて、資料1で日程の最終確認をする。比較・評価を8/26から8/31に行っていたら、8/2に第10回専門家委員会と比較評価したものを議論いただきたい。報告書に記載すべき事項等についても、第10回専門家委員会でも議論したい。
- 委員 この報告書の案ができたなら、そのとき、また議論していただければと思う。報告書については次回、項目や方向性を考えて、市で作られてもう一度フィードバックしていただけるので意見をいただければと思う。評価項目の大項目・小項目に「ひとづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」を追加してほしい。他に追加すべき大項目・小項目があれば願います。